

時の階

平成 28 年初夏号
(第 3 号)

平成 28 年 6 月 1 日発行
三郷市文化財サポーター代表
発行：記録広報部会
事務局：生涯学習課
048-930-7759

平成 28 度 文化財サポーター 春の活動記録

会報も第 3 号となりました。
今回は平成 28 年度春を中心とした
文化財サポーターの活動をご紹介します。

① 恩田染工場調査

1 月 12 日に資料館事務局の皆様
にサポーターの久木田さんをまじえ
て、三郷市を代表する伝統工業、長
板中形の工房のある恩田育男さん宅
の調査を行いました。



長板中形は江戸時代から続く伝統
的な染色技法で江戸小紋より、やや
大きな型紙を使うところから中型と
呼ばれます。

今回の調査では、工房の方から、
水のきれいだった昭和年代までは川
の水を利用していたことなど興味深
い話を伺うことが出来ました。

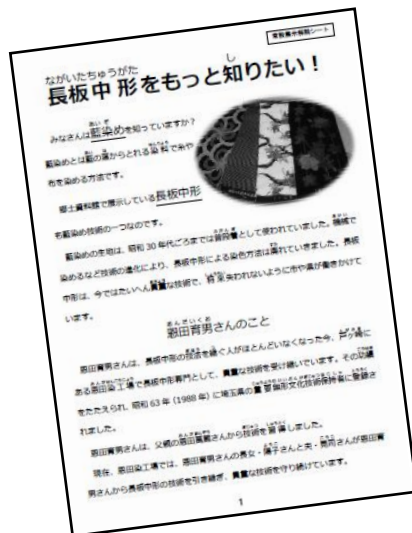
また、新たに柄見本、被布、印半纏
などの資料の寄贈も受け、それらを
もとに、資料館内の展示替えも行い
ました。



来館者用の解説シートも作成しま
した。

染色から完成までを多くの資料を

用いて、よりわかりやすい展示にす
ることが出来ました。



② 立澤家調査

3月29日に市内で古くから農業を営まれていた立澤家の調査に事務局の方々と文化財サポーターの菅原さん、相徳さん、小谷さん、南さん、久木田さん、中山さんで伺いました。

御当主の敏正さんは御年90歳。戦後は一時、ソ連軍の捕虜となり、外蒙古のウランバートルに抑留されていた経験もありで、その御苦労も貴重な体験談として、御話し下さいました。



立澤家では、このたび、納屋を解体されるとのことで、納屋の調査をさせていただきました。



その結果、一人で俵を編むタワラアミキや、昭和22年（1947年）のカスリン台風の時に実際に使用したさつぱ船など三郷市の伝統的な暮らしに根付いたさまざまな資料を確認することが出来ました。

そのうちのいくつかは資料館に

民俗資料として寄贈していただきました。



年々、その町の姿を変えていく三郷市ですが、こうやって三郷市の往時の記憶をとどめていくことが出来たらと思います。

③ 時候の展示替

ひな祭りと端午の節句に合わせて、恒例となりました、時候に合わ

せた展示替えを行いました。

3月には愛らしいひな人形が、5月には勇壮なこいのぼりが館内に飾られました。



三郷の古文書を読む

議定り札事

一 尚村等と勝右衛門 安政十九日宿左はれり
年寄助元無任四代目雲月同様集り有兼、
心算一占跡及、餘村役人一同合御用向
村月大膳文書、紙尾又は宿左等上合御用向
諸科決定り通

一 年寄諸科不代七述、仕辭、宣法科信
流幣改羊皮相勤、苦取極御用向延有兼
波の、宣法科、年寄合御用向、年寄、
折勤年寄諸科、年寄合御用向、年寄、
波の、宣法科、自善法役人、一、
取極凡且又年寄、及向後加役人、
取極、未だ、村不用、
除、村方、
一、
中、
作

石倉係、内村等、同書、上、
少、
年寄、

安政六年 七月

或公由、
上、

私たち、文化財サポーターの文書資料部会では活動の一助となるように古文書の学習を行っています。毎回課題を決めて勉強を行っています。場合によっては市外の古文書の場合もあるのですが、第一回の課題は三郷にかかわるものだったので紹介しておこうと思います

上に載せた文章の内容わかりますか。一番最後に「上彦川戸村」と書かれています。

この文書、彦川戸にお住まいで文化財保護審議会委員をなさっている堀切貞司さま宅に保存されていた

「堀切家文書」の一つで、幕末の安政年間に書かれたものです。

内容を見て行くと、安政六年七月十九日（1859年）に名主の勝右衛門さんが亡くなり、その仕事を引き継ぐことになった村役人の人たちが集まって、その仕事の給料を定めた文書になっています。

領主からの廻状を取り次ぐ「御用向配付取次致年寄」の給料は年二兩二分、村内の諸用を担当する「村用向申合致年寄」の給料は年一兩二分だそうです。

当時としては、結構いい給料だったのではないのでしょうか？

でも農民たちが自ら村の行政を担っているのは大したものだと思います。

「模範解答」は『三郷市史 第二巻 近世資料編』349頁にあります。興味のある方は調べてみてください。

彦成小学校講堂記念館 三郷市指定文化財に!

彦成小学校の講堂記念館が本年3月10日付で三郷市指定有形文化財(建造物)に新指定されました。

この講堂記念館は大正15年(1926年)に彦成小学校の講堂として建設されたもので、平成4年(1992年)からは旧郷土資料館、現在は講堂記念館として使用されています。

講堂記念館では、現在、教育関連を中心とした展示が行われ、文化財サポーターにとっても活動場所の一つとなっています。

この指定をきっかけに講堂記念館がより市民に親しまれる場所になることを願ってやまないとともに、サポーターとして講堂記念館の充実のためにも一層の努力をしていきたいと感じました。



事務局

新スタッフのご紹介

事務局のスタッフとして長らく私たちサポーターの活動を支えてくださった正士さんが他の部署に移られました。正士さんには大変にお世話になりましたので、この場をもってお礼を申し上げたく存じます。

一方で、事務局に新しいスタッフが配属されました。新たに私たちと活動を共にするお二人に、コメントをいただきました。

正士の後任となりました本橋と書間です。今年度より事務局職員として皆さんと一緒に仕事をさせて頂くことになりました。主として、本橋は市史を、書間は文化財を担当いたします。本橋・書間ともに三郷の歴史・文化財はまだまだ勉強不足ですので、皆さんと一緒に勉強していきたいと存じます。よろしくお願ひ致します。

ただ今

新サポーター養成中!

5月21日より、今年度の文化財サポーターの養成講座が始まりました。5回の講座で「三郷の歴史」や「民俗資料の取り扱い」について学びます。

新たに三郷の文化や歴史を学んだ皆さんが私たちと共に文化財サポーターとして活躍して下さると思うと、今から期待に胸が膨らむ思いです。

編集後記

広報誌第3号がようやく発行できました。

文化財サポーターの活動が始まって、丸二年が経ちました。

この二年間でいろいろなことが行われたなあと感じる一方、まだまだやれていないこともたくさんあることも痛感します。

これらの反省をふまえつつ、今年度の活動につなげていきたいと思ひます。そして、この広報が振り返りのための一助となればいいなと感じています。

